

近畿運輸局は法律を守らせろ！雨の中、怒りの行動

＝自交総連大阪地連＝

「大阪のタクシー事業者は法律を守れ！」「近畿運輸局、大阪労働局は法律を守らせろ！」——タクシーの規制緩和から丸10年が経過した2月1日、大阪地連・京都地連・和歌山地連のなかま200人が「怒りの行動」として近畿運輸局前での座り込み宣伝、同局および大阪労働局への要請行動に取り組みました。大阪地連が大阪府内のタクシー事業者210社を対象に、「嘱託労働者に有給休暇が付与されているか」について営業中の乗務員約300人に聞き取り調査を行なった結果、話を聞くことができた106社中61社の乗務員が、法律どおりに付与されていない実態を証言し、労働者の無権利状態が浮き彫りになりました。

「怒りの行動」でなかまは雨が降る中、「業界の無法体質を改めたい」と懸命にアピールしました。



連合労組から「『2 条例』はとんでもない！話をしてほしい」

～東大阪労連～

東大阪地域労組「働く仲間の会」の楠本副委員長に、市内にある連合加盟のS労組の委員長から、「新聞の折り込みに2条例反対のチラシが入っていた。橋下市長は無茶苦茶やっている。組合員の家族にも大阪市の教員や保育士もいる。ぜひ、2条例の話を組合の集会で話をしてほしい」と呼びかけられました。楠本副委員長が参加した2月3日の春闘の昼休み集会には、組合員が40人以上集まっており、短時間ではありましたが、2条例の問題点を話し、署名の協力を訴えました。その集会には、上部団体の単組書記長も参加されており、「この問題は大変なこと。話し合って全国的にも取り組んでいきたい」と話されました。東大阪労連では、「連合の中にも今回の橋下市長・維新会のやり方に怒っている組合はたくさんある事がわかった。2月の地域総行動で労組訪問を大きく取り組んでいこう」と確認しています。

中身を知れば応えてくれる

＝2条例の制定を許さない宣伝行動＝

2月7日、国労会館のメンバーで大阪市の北区所前で2条例制定反対宣伝行動に取り組みました。2条例の問題点を訴え、署名を呼びかけると、若い男性が近寄り、「今ゆとり教育やから、一度競争を持ち込むのもいいかもしれない。ダメなら元に戻せばいい」と話しかけてきました。「アメリカではテストの日『出来の悪い子』は休め」といわれているらしいよ・・・」など話をすると、「(橋下・維新の会は)アイディアがなさすぎる！」と突然署名をしてくれました。「対話で具体的に話をすれ署名してくれんや」とうれい出来事に元気になる宣伝となりました。



目に見え、音が聞こえる宣伝

団結権侵害を許さず、教員・職員の働きがいを守れ！ 市民との共同で市民サービス切り捨ては許さないぞ！

～大阪市労組連決起集会～

大阪市の橋下徹市長は、職員労働組合に対して市役所内から事務所を退去するよう求め、総務局長名で『来年度以降は使用許可を出さない』とし、今年度中に退去するよう文書で労組に一方向的に通告しました。大阪市労組連は団結権の侵害となるこの暴挙に対して、2月6日に大阪市役所前で「教育基本条例・職員基本条例に反対し、教・職員の働きがいを守る攻撃とたたかう大阪市労組連決起集会」を開催し、200人が参加しました。

集会では、実森市労組連委員長から主催者あいさつのあと、続大阪労連副議長が「労働組合の歴史は



生まれた時からたたかひの連続だった。今回の攻撃も全力ではね返そう。また、高齢者や障害者の暮らしを守る大阪市社協でも100人の首切り攻撃がかけられている。市職員いじめは市民サービス切り捨てにつながっている。断固反対の立場で、職員の暮らしと市民生活を守るために大阪労連はたたかひの先頭に立って奮闘する」と力強く訴えました。市民ネットワークの藤永さんからは「道頓堀をプールにするとか、大阪城公園から大きな橋を作るとか、そんなこ

とは誰も願っていない。ソウルの市長は『子どもの権利条約』に基づいた条例を作っている。子どもの権利をないがしろにする大阪市長は辞めてもらうしかない」、大生連の大口さんからは「生活が大変な市民のためにがんばっている市職員と市民を分断するような、職員基本条例は断じて許せない」、大商連の福井さんからは「地方自治体の税務職員は権力機構の役割を持っている。それが、中小業者を苦しめるために使われたらとんでもないことになる」、大教組の末光副委員長は「学校でも組合掲示板の撤去を言いだす校長も出てきた。労働組合の権利を守るため



にたたかう。2条例を制定させない100万署名に向けて全力で奮闘する」、自治労連の前田副委員長からは「自治体労働者の初心は地域住民に喜んでもらう仕事がしたい。しかし、笑顔どころか府民は下を向いている。橋下・維新の会に投票していない住民の声を聞くのも自治体労働者の役目。胸を張って民意を語っていこう」、大阪国公の大石副委員長からは「公務とは、一時の利益や収益で判断できるものではない。地域住民の安心・安全を守るためにも、広範な世論で現市長を包囲しよう」と、ともにたたかう発言が続きました。また、東部地区協からは激励の寄せ書きが贈られました。

中山市労組連書記長から「大阪市の非正規職員には、生活保護基準以下の賃金水準で働いている仲間が大勢いる。その人たちにも賃金引き下げを強行しようとしている。断じて許すことはできない」

最後に 竹村市労組連副委員長の発声でシュプレヒコールを大阪市役所に向けて行い「2条例を撤回せよ！市民サービス切り捨ては許さないぞ！」の声を中之島に響かせました。

